

【NEWS RELEASE】

2021年7月27日

各位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

“SMBC Group GREEN Innovator”の立ち上げについて

株式会社三井住友フィナンシャルグループ（執行役社長グループ CEO：太田 純、以下、当社グループを総称して「SMBC グループ」）は、サステナビリティ関連のソリューションの提供及び新たなサービス開発やノウハウ蓄積の活動・取組を総称した“SMBC Group GREEN Innovator”（SMBC グループ グリーンイノベーター）を立ち上げました。また、この活動・取組のもと、新たに2件の取組を創出しました。

1. “SMBC Group GREEN Innovator”について

昨年10月の日本政府の2050年カーボンニュートラル宣言以降、本年4月に2030年における温室効果ガスの46%削減目標が設定されるなど、脱炭素社会への移行をはじめとするサステナビリティへの取組みが加速しています。

今後、脱炭素を始めとするサステナビリティに関するお客さまのニーズが多様化、高度化すると見込まれる中、SMBC グループは、お客さまのニーズに対するグループ一体となった対応力の強化と、グローバルに展開する金融グループとして、社会のサステナビリティの実現に向けた自社のノウハウの蓄積が必要であると考えています。また、多様化するお客さまのニーズや求められるノウハウは、金融分野にとどまらず、脱炭素関連分野やエネルギー分野といった非金融分野にまで広がることから、他業種との協業が必要になると認識しています。

こうした認識のもと SMBC グループは、サステナビリティ関連のソリューションの提供及び新たなサービス開発やノウハウ蓄積の活動・取組を総称した“SMBC Group GREEN Innovator”を展開してまいります。“SMBC Group GREEN Innovator”のもと、グループ全体のサステナビリティに関するノウハウ、情報を集約することで、他業種との協業を円滑にし、またサービス開発力を強化することで、お客さまにより高度なソリューションを提供していきます。



2. “SMBC Group GREEN Innovator” から創出された新たな取組について

(1) AI 技術を活用した気候変動シナリオ分析の高度化

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠、以下「SMBC」）は、“SMBC Group GREEN Innovator” 発の取組として、気候変動に関する情報開示の枠組みである「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」の提言への対応の一環として、物理的リスクに関する気候変動シナリオ分析を高度化します。

今回の高度化は、米国スタートアップ企業である Jupiter Intelligence 社^{*1} が有する AI 技術を活用し、リスク分析力に長けたコンサルティングファームである MS&AD インターリスク総研株式会社との協業を通して、気候変動シナリオ分析において課題となっていた科学的なデータの不足や対象地域の網羅性の欠如といった課題を解決するものです。

具体的には、AI による機械学習を行いながら、様々な気候関連データや地形などの衛星画像データを分析することで、今回、水災（洪水）発生時に想定される浸水の深さを、全世界を対象に予測することが可能となりました。この結果、公的機関が公表するハザードマップのない地域においても水災発生時のリスクを定量的に把握することが可能となり、新たに海外の事業法人を分析対象に追加することができました。

物理的リスクに関するシナリオ分析では、気候変動シナリオごとの洪水発生確率^{*2} を活用しています。国内の事業法人を対象とした従来の分析結果に、海外の事業法人を対象とした分析結果を合算すると、2050 年までに想定される与信関係費用の累計は 550 億～650 億円程度と試算されます。これは単年度平均値では 20 億円程度の追加的な与信関係費用の発生となることから、SMBC の単年度財務に与える影響は限定的であると考えられます。詳細に関しては、8 月に公表する「SMBC グループ TCFD レポート 2021」に掲載する予定です。

*1 通信衛星データを含む多様なデータを収集し、AI 分析により自然災害発生を予測できる気候変動リスク分析の米国ベンチャー企業。社員にはノーベル受賞機構である IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の研究者や、70 か国で使用されている世界的に有名な海洋循環モデル（“Princeton Ocean Model”）発案者などが在籍。

*2 以下論文に基づくデータを使用

Hirabayashi Y, Mahendran R, Koirala S, Konoshima L, Yamazaki D, Watanabe S, Kim H and Kanae S (2013) Global flood risk under climate change. Nat Clim Chang., 3(9), 816-821. doi:10.1038/nclimate1911.

<シナリオ分析の概要（物理的リスク）>

	従 来	見直し後
リスクイベント	水災	変更なし
使用シナリオ	RCP2.6 (2℃シナリオ) RCP8.5 (4℃シナリオ)	
分析対象	事業法人	
分析期間	2050 年まで	
リスク指標	増加が想定される与信関係費用 (信用コスト)	
地域	日本国内	
分析結果	累計 300~400 億円	累計 550~650 億円

(2) SMBC サステナビリティ優先課題特定ツールの開発

SMBC と株式会社日本総合研究所(代表取締役社長:谷崎 勝教)は、“SMBC Group GREEN Innovator” 発の取組として、「SMBC サステナビリティ優先課題特定ツール（以下、「本ツール）」を開発しました。

本ツールは、お客さまの「サステナビリティに関する自社の優先課題を検討したい」とのニーズに応えるために、株式会社日本総合研究所が有するデータ解析力を活用して開発したものです。

具体的には、SMBC の営業員が、お客さまの業種や規模などの属性をお客さまと対話しながら選択肢から選ぶことで、お客さまに適したサステナビリティに関する優先課題の候補、他社の取組事例及び関連する SDGs のゴールなどが自動的に導出されるものです。本ツールを活用することにより、SMBC の営業員とお客さまが共にサステナビリティに関する議論を深めることが可能となります。

SMBC グループは、サステナビリティ宣言に基づきお客さまをはじめとするステークホルダーとの対話を重ね、共に行動することにより、サステナビリティの実現に積極的に貢献してまいります。

以 上